

中日理論言語学研究会2026.9.27

文と主体の関係を問い直す

—対話性基盤の視点から

高山善行（福井大学）

主張

- (1) 文法研究の視野を広げるためには、主体（話し手）と文の関係を問い直す必要がある。
- (2) 反語文に見られる対話性を応用すれば、文の成立の新しい説明モデルを作ることができる。
- (3) その視点から、文の意味タイプ、形式の記述や主体の捉え直しを行い、事実の発見、問題解決につなげたい。

(4) 新しい景色が観たい！



1. 問題の所在

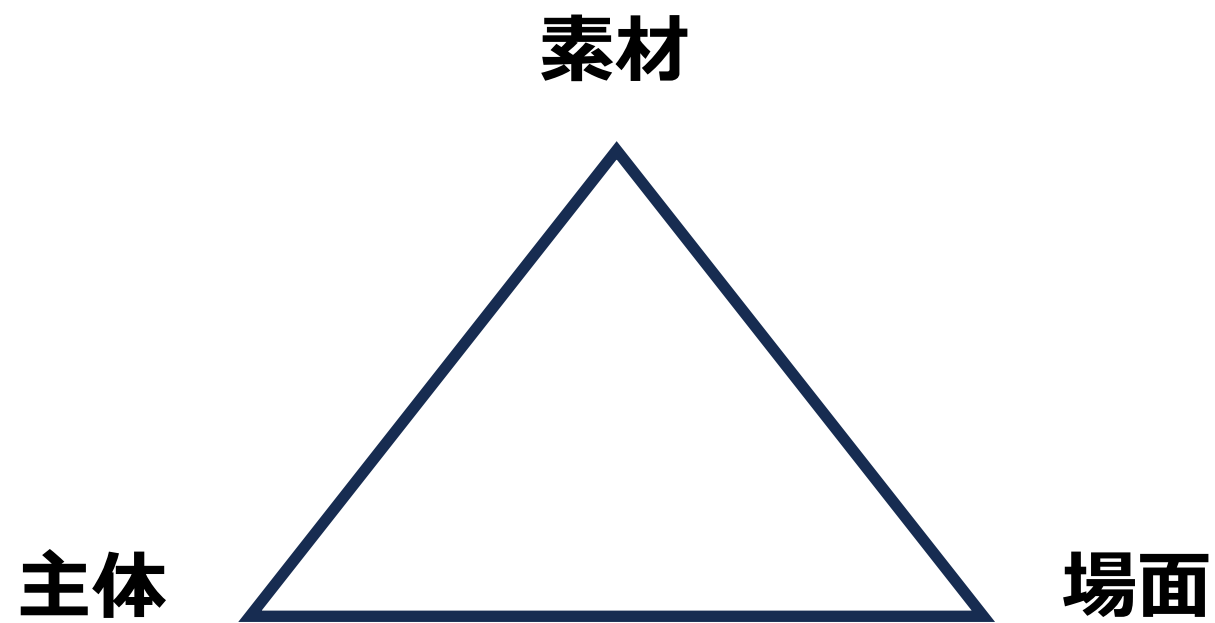
(5) 本研究の背景

1) AIの登場

2) 役割語、発話キャラ論

3) 文論の停滞（特に、文の意味タイプ）

(6) 時枝文法



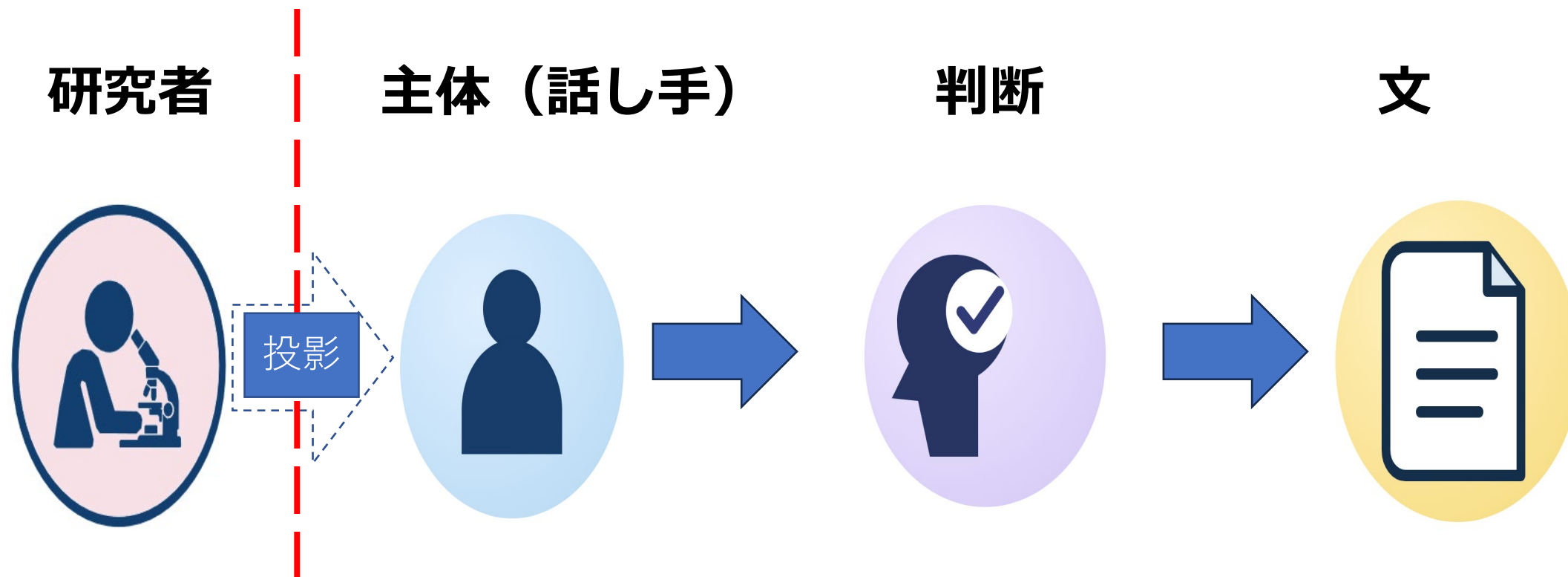
時枝誠記 (1941) :41

文とは

- (7) 文は、言語活動の場において、単語を構成材料として文法規則にのっとして組み立てられた**構築物**である。10
- (8) 文には、**話し手**が外在・内在的世界との関係で描き取った客体的な出来事や事柄を表した〈言表事態〉と、言表事態をめぐっての**話し手**の主体的な捉え方および**話し手**の発話・伝達的態度のあり方を表した〈言表態度〉とが含まれている。10
- (9) モダリティとは、発話時の**話し手**の立場からした、言表事態に対する把握の仕方、および、それらについての**話し手**の発話・伝達的態度のあり方を表し分けたものである。26

仁田義雄（2009）より

(10) 従来型モデル



(11) 従来型の有効性

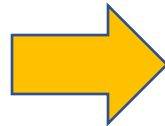
高い	低い
文構造、統語関係	文の意味タイプ
形式の記述	複合的現象（「疑問＋推量」等）
複数分野での共有性（方言研究、歴史研究）	社会性（資格・権利）、規範
教育での活用	アイロニー、反語など

(12)説明モデルの関係

従来型モデルは、おおむねうまくいっているが、
有効性の低い領域をカバーする必要がある。



二者択一



二者共存

2. 対話性基盤の視点

対話性（提起態／応答態）が起点の説明モデル

(13) 反語文



(14)反語文の対話性



(15) 対話性の説明モデル



(16)病院の待合室

受付係「田中さん」 **(提起位置)**

田中「はい」 **(応答位置)**

×佐藤「はい」 (位置が不適正)

適正な位置は、正当性を説明できる



(17) エレベータ

客A：「何階ですか？」

客B：「5階、お願いします」

客A：提起位置、資格、主体

客B：応答位置、資格、主体



発話で位置・資格・主体が成立

基本概念	定義
提起態	事態・行為などを応答可能なものとして提示し、対話空間を開くあり方。
応答態	提起されたものに対して、一定の位置から引き受けるあり方。
位置	対話空間のなかで、主体が占める関係的な場所。物理的な場所ではない。
資格	対話位置を正当に占め、提起、応答が規範的に認められた状態。
主体	資格のもとで対話的位置を占める、実体的な人間等。

(15) 対話性の説明モデル



従来型の主体（実体論的） VS 新モデルの主体（関係論的）

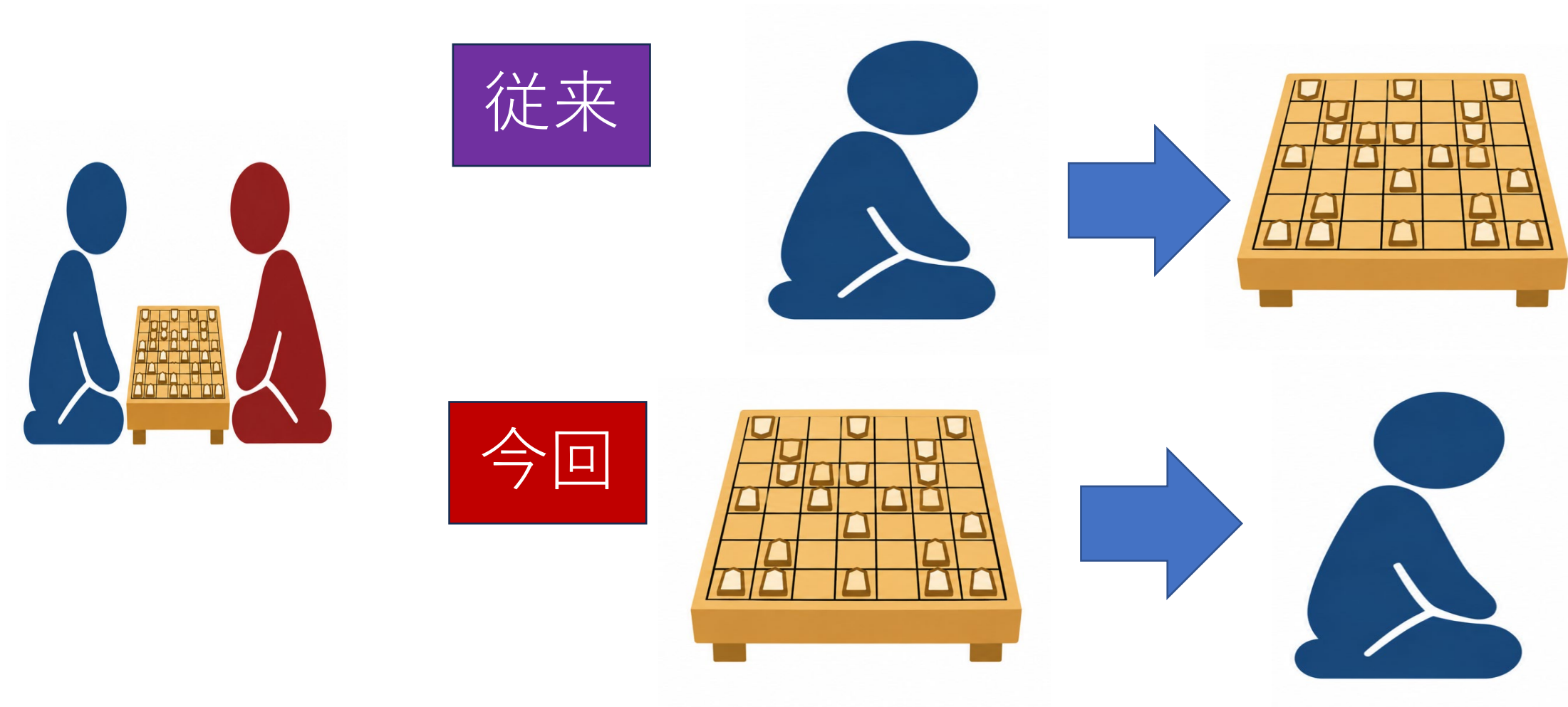
「作家」VS「作者」（新モデルの主体）

元作家、作家をやめる／＊元作者、＊作者をやめる



作者（主体）は、作品（文）とともに、作品（文）ごとに成立

(18) 「人間が先」 VS 「ゲームが先」



(19)文の意味タイプ（暫定案）

文の意味タイプ	すべての文に〈提起／応答〉が備わる
平叙文	応答態が前景化し、事態の成立を提示する。
疑問文	提起態が前景化し、情報を要求する。
命令文	提起態が前景化し、行為を要求する。
感嘆文	応答態が前景化し、評価を提示する。

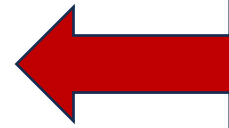
3. 文と形式

説明モデルを言語現象に下ろしてみる

(20)平叙文

(「誰が来たの？」など)

A : 「太郎が来た」



説明責任

B : 「なぜ？」

応答	理由説明
事態レベル	先生に呼ばれたから
認識レベル	歩くのが見えたから
発話行為レベル	君に聞かれたから

(21) 命令文

(サッカー部の練習)

マネージャー：「運動場、10周走れ！」

選手：「なぜ？」

マネージャー：「監督の代理だから」



「なぜ？」は資格の有無を問う

(22) 「行こうか戻ろうか」問題

行こうか。 「う」 = 〈意志〉、 「か」 = 〈疑問〉

説明：話し手が「行こう」という意志をもち、その意志を「か」が疑問化する



難問： 〈意志〉は疑問の対象になるか？

(23) 対話性基盤

「行こう」	行為の可能性の提示
「行こうか」	行為の可能性を提起し、応答位置を開く
「行こうか戻ろうか」	行為の可能性を並列提起し、応答位置を開く

4. 再び、反語

提起態と応答態の重ね合わせ

(24) 意味理解の実時間性

母親「何回言ったらわかるの！」
子ども「……」
×子ども「3回」

意味をすぐに理解



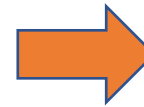
(25) 規範と強調

(審判が選手の抗議に)

- a. 「規則第×項で、アウト！」
- b. (単に) 「アウト！」



[提起／応答]が内在する規範を
呼び起こす



強い主張 (強調)

(26)状態の重ね合わせ

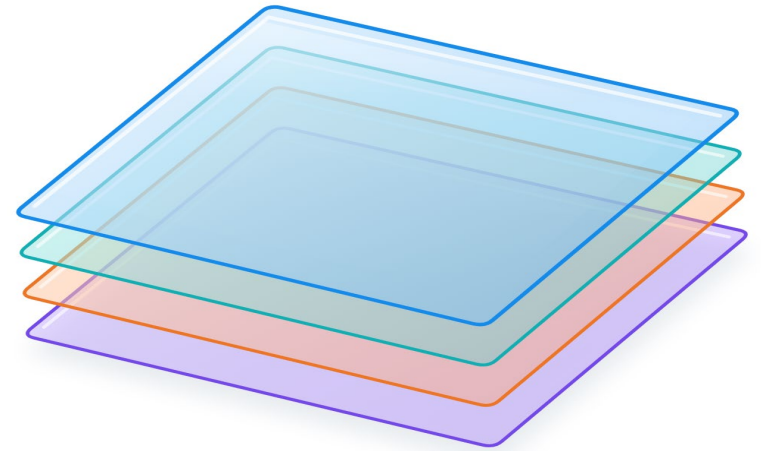
「それじゃあ、なにかい」

(先行発話Xを受けて)
それじゃあ、 なにかい

応答

提起

[応答／提起]の重ね合わせ



「どっちの意味」テスト

A:「その映画、なんで観たの？」 〈手段〉 〈理由〉

B:「それって、どっちの意味？」

A:「両方」

2つの意味状態が重ね合わさっている

追加

花の色は移りにけりな **（降）（長雨）**
いたづらに我が身世にふるながめせしまに（小野小町）
 （経）（眺）

意味1：花は色あせてしまったなあ、むなしく降る長雨の間に
 〈自然の景物〉

意味2：私の容色は衰えてしまったなあ、むなしく世を過ごして
 ものの思いにふけていた間に **〈自分の人生〉**

5. 主体論

主体（話し手）を捉え直す

(27)主体の多様性

事例	従来型で生じる問題	
AI	意図、身体をもつ話者か	
死者	話者の実在性は必要か	
動物	人間的な言語能力をもつか	
人間	話者として問題化されにくい	

(28)主体の多元性

「大学教員・父」と「履修生・息子」

[大学で]

教員・父：「この問題解いてみて」

学生・息子：「わかりました」
？「いやだ／いやです」

[家庭で]

教員・父：「この問題解いてみて」

学生・息子：「いやだ／いやです」



追加スライド

（部屋にゴキブリが出現した場面）

妻「教授、お願いします！」

夫「（しぶしぶ）わかった……」

「夫で教授」から「教授と助手（？）」へ

(29)主体の重層性

[寅さんの演説場面]



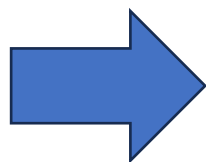
田所康雄（本名） 渥美清 寅さん 指導者

入れ子構造

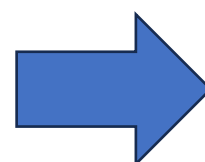
表現行為論（映画、演劇、漫才など）へ

6. まとめ

主体（話し手）



判断



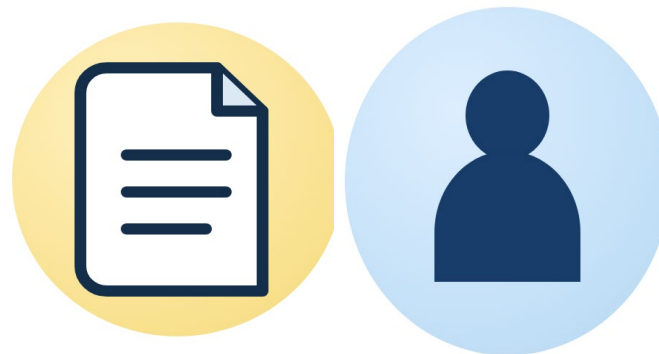
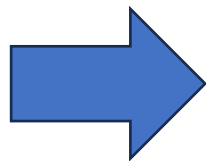
文



対話性



文・主体

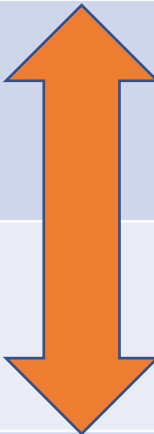


(30)比較表

観点	従来型	対話性基盤
説明の起点	主体（話し手）	提起態／応答態の関係
文と主体	主体が文を作り出す	文の成立と同時に主体が成立する
対話の位置づけ	文の成立後に生じる運用	文を成立させる基盤
主体の捉え方	文に先行して存在する実体	対話的位置を占めるもの

(31)説明階層

階層	対象範囲	領域
第1階層	対話性、規範	哲学・心理学・社会学等と共有
第2階層	文の成立、文の意味タイプ	語用論、意味論
第3階層	文の構造、形式	統語論



(32)人称制限

a.私は寒い。

b.*あなたは寒い。

c.*彼／彼女は寒い。

二、三人称の場合、「なぜ？」と問われると理由が説明できない

資格の問題？

結論——対話性基盤の視点

- ①多様な文法現象を提起／応答という共通原理から統一的に説明できる。文の意味タイプの研究等に資する。
- ②主体を文に先行するものとせず、提起／応答によって開かれる対話的位置、資格の関係から捉え直せる。
- ③文法分析に、規範、資格、責任、権利などの社会性を組み込める。
- ④関連分野（哲学、心理学等）や表現行為論との回路となる。

主な参考文献

安達太郎(2004)「疑問文における反語解釈をめぐる覚え書き」京都橘女子
大学研究紀要31

福沢将樹(2015)『ナラトロジーの言語学』ひつじ書房

井上優(2013)『相席で黙っていられるか?』岩波書店

金水敏(2025)『役割語とキャラクター』くろしお書店

宮地裕(1979)『新版文論』明治書院

仁田義雄（1989）「「行こうか戻ろうか」をめぐる一意志の疑問化―」
『日本語学』（8）8、明治書院

仁田義雄(2009)「現代語の文法・文法論」『改訂版 日本語要説』ひつじ書房

定延利之(2020)『発話の権利』ひつじ書房

時枝誠記(1941)『国語学原論』岩波書店

山口堯二(1990)『日本語疑問表現通史』明治書院

(追加) 参考文献

- ・ 松村明編(1968)「シンポジウム時枝文法」 『講座日本の文法別巻』 明治書院
- ・ 森岡健二他(1974)『シンポジウム日本語2 日本語の文法』 学生社
- ・ 小林敏明(2010)『〈主体〉のゆくえー日本近代思想史への一視角』 講談社
- ・ 影山太郎(1999)『形態論と意味』 くろしお出版
- ・ クランシー(2023)「日本語におけるコミュニケーションのスタイルの習得」 クック峯岸治子・高田明編『日本における言語社会化ハンドブック』 ひつじ書房
- ・ 寺村秀夫(1993)「語法と社会通念」 『寺村秀夫論文集Ⅱー言語学・日本語教育編ー』 くろしお出版

これで発表は終わりです。
ご清聴、ありがとうございました。

この発表は、**応答**です。
たくさんの**提起**をお待ちしています。